

薩南だより 5月号

～令和元年は創立110周年～

鹿児島県立薩南工業高等学校

令和元年5月発行(第138号)



○4月9日(水)入学式 新入生120名が、薩南工業高校で学ぶ友となりました。



○4月9日(水)日新寮 入寮式



○4月10日(木)対面式 墨縄の実演



○5月7日(火)服装頭髪指導



○5月8日・9日 各運動部の南薩地区大会



○4月18日(木)南部九州総体開催100日前告知イベント テーマ「感動は無限大」

「本校創立110年の歩み～（４）」

校長 大保 智

「平成」から新元号「令和」に代わり、新しい時代の風が、初夏を思わせる暖かな風とともに吹き寄せています。新年度が始まってからひと月以上が経ちました。今年度本校へ赴任された13名の先生方にも、生徒への教育指導に熱心に取り組んでいただいております。

全校生徒342名の生徒の皆さん、創立110周年の年にこれまでの歴史を踏まえ、新しい歴史を作るという気概と誇りを持って取り組んでいきましょう。生徒の皆さんの活躍を大いに期待しています。

さて、昨年度から本校のこれまでの歩みを振り返ってまいりました。今回は、昭和の経済発展の約10年を紹介します。

薩南工業高等学校（Ⅰ）

新制学校制度がようやく軌道に乗り始めた昭和25年、日本国内では産業の復興と経済の自立が課題となり、産業教育振興の機運が高まっていた。職業教育振興には新たな立法措置が必要となり、昭和26年に「産業教育振興法」を公布。これを受け我が校でも普通科及び家庭科が廃止され、昭和34年、校名は「鹿児島県立薩南工業高等学校」となった。

奇しくもこの年、我が校は創立から50年を迎え、創立50周年記念式典を挙行了。同年機械科も設置され、半世紀前に知覧村長宮原直二氏が熱望した「工業教育による技術者育成」という本校本来の姿を取り戻していく。

時代は高度経済成長を迎え、産業界の技術者育成が緊急の課題となっていた。更に30年代後半には、戦後のベビーブームが重なり、20年代末期に比べて工業科生徒数は3倍以上となった。本校においても、昭和35年に機械科実習室新築、翌年に材料実験室及び土木施工実習室新築、同37年、4階建て校舎新築、原動機実験室新築、鋳造実験室新築、同38年、建築実習室新築、同39年鉍物分析室新築など、次々と設備拡充が推し進められた。また、部活動では、陸上部、弓道部、ハンドボール部が全国大会に出場するなど、輝かしい成績を残している。

昭和60年、知覧高校廃止に伴う女子高校進学希望者の受け入れ対策として、生活科学科を新設。半世紀ぶりに再び薩南工業高校は男女共学となった。

（本校創立100周年記念誌掲載文から）

昭和62年3月知覧高等学校が閉校となり、その前の昭和60年に家庭科に関する学科「生活科学科」が新設。以来、生活科学科の卒業生は1232人となり、南九州市内はもとより県内外で活躍されています。

終わりに、令和元年10月26日（土）の創立110周年記念式典を開催します。また、各種記念行事として記念体育祭を9月7日（土）、記念文化祭を11月8日（金）～9日（土）に開催予定です。学校、保護者を始め、同窓会や多くの関係者の方々とともに、これからも地域の中の学校として活動を進めてまいります。是非ご覧ください。また、本校へのご支援、ご協力をよろしく申し上げます。

薩南工業高校ホームページ <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/satsunan/>
薩南工業高校公式Facebook <https://www.facebook.com/SATUNANKOUGYOU>

「薩南工業高校」で検索！